

日本と南アジア、中東欧のアート界の交流を促進 ～2026 年度 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業～



2025 年度 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業における展示視察の様子
(資生堂ギャラリー／「高田安規子・政子 Perspectives この世界の捉え方」)

国際交流基金（JF）は、公益財団法人石橋財団のご協力のもと、2018 年度から「石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業」を実施しています。本事業は、海外において日本の現代美術に関わる人材を育成し、人的ネットワークを構築・発展することを目的に、海外の現代美術の専門家等（主にキュレーター）をグループで短期間日本に招へいするものです。美術館やギャラリー等の視察、日本のキュレーターやアーティストとの交流を通じて、相互理解を深めるとともに、専門家同士の継続的な関係構築を図ります。

今年度は、本事業として初めてとなる南アジアと近年招へい実績の限られていた中東欧を対象地域としました。南アジアでは、大規模な国際展の開催や民間財団による継続的な支援を背景に、国や地域を超えた関係者の交流やネットワーク形成の機会が広がっています。また中東欧では、美術館や現代美術センター、国際展等を基盤とした多様な活動が展開されており、両地域とも今後、日本との美術分野における交流のさらなる発展が期待されます。

こうした背景のもと、2026 年 10 月 29 日から 11 月 9 日にかけて南アジア（インド、ネパール、バングラデシュ）から、また 11 月 1 日から 12 日にかけて中東欧（スロベニア、チェコ、ハンガリー、ポーランド）から、それぞれ 7 名の専門家を招へいます。参加者は、美術館や現代美術機関、アート・スペース、国際展で活動するキュレーターを中心に、アート、テクノロジー、科学、社会、教育など多様なテーマに取り組む専門家で構成されています。

両グループは招へい期間中、東京及び関西の美術館やギャラリー、アート・スペース、作家のスタジオ等を訪問するほか、都内の美術館やギャラリーを舞台に開催される「Art Week Tokyo」にも参加し、日本のキュレーターやアーティスト等との交流・意見交換を行います。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

記

事業名称：2026 年度 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業

主催：独立行政法人 国際交流基金（JF）

特別助成：公益財団法人 石橋財団

主な訪問先（予定）：

アーティゾン美術館、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、東京都写真美術館、森美術館、
トーキョーアーツアンドスペース、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、兵庫県立美術館、Art Week Tokyo、
作家スタジオなど

1. 南アジアグループ

招へい期間：2026 年 10 月 29 日（木）～11 月 9 日（月）

招へい者：7 名

2. 中東欧グループ

招へい期間：2026 年 11 月 1 日（日）～11 月 12 日（木）

招へい者：7 名

招へい者へのインタビューや、各訪問先での交流・視察の様子について、ご取材いただけます。（通訳を手配いたします。）訪問先関係者へのインタビューについては、個別の許諾が必要です。
詳しくは、国際交流基金 ブランド推進部広報課 press@jpf.go.jp までご連絡ください。

南アジアグループ招へい者

●インド

Gauri Pathak（Khoj International Artists' Association シニア・キュレーター、コミュニケーション担当）

ニューデリーを拠点とする非営利の現代アート組織 Khoj にて、アーティスト・イン・レジデンス、展覧会、ワークショップ、パブリックプログラム等の企画・運営を担当。参加型実践や美的教育、ストーリーテリングを軸に、人々がアートと出会い、関係を築くあり方を探究している。

Anushka Rajendran（Prameya Art Foundation チーフ・キュレーター）

社会、環境、文化をめぐる課題に取り組むアーティストやプロジェクトに着目し、リサーチに基づくキュレーションを実践。2018 年にはコチ＝ムジリス・ビエンナーレのアシスタント・キュレーターを務めたほか、アートジャーナル『TAKE on Art』の編集やアウトリーチ事業にも携わる。

Jahnavi Phalkey（Science Gallery Bengaluru エグゼクティブ・ディレクター）

科学技術史を専門とし、科学と社会・文化との関係をめぐる研究やキュレーションを行う。Science Gallery Bengaluru では、科学、芸術、社会を横断する展覧会を手掛けるほか、著作やドキュメンタリー映画制作等幅広い活動を展開している。

●ネパール

Neda Haffari（Space A ディレクター、キュレーター）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

カトマンズを拠点とするオルタナティブスペース Space A のディレクターとして、実験的・学際的な現代美術を軸に、展覧会、リサーチ、レジデンス・プログラム等を企画。若手アーティストの支援や、国内外のアーティストやキュレーターをつなぐネットワーク形成にも携わる。

Manish Lal Shrestha (Gallery Mcube 創設者、ディレクター)

現代美術のための学際的なアートセンター Gallery Mcube を設立し、展覧会、アーティスト・イン・レジデンス、ワークショップ、国際協働プロジェクト等を展開。アーティストとして活動する一方、若手アーティストの支援やコミュニティとの協働を通じ、ネパールの現代美術シーンの発展に貢献してきた。

● バングラデシュ

Emdadul Hoque Topu (British Council Bangladesh アート・プログラム・マネージャー)

アーカイブや記憶を主題に、不在や移動、忘却が歴史や表象に与える影響を探究。2022 年には Britto Arts Trust の一員としてドクメンタ 15 に参加したほか、国際的なフェローシップやキュレーター育成プログラムを通じて活動の幅を広げている。

Ruxmini Reckvana Q Choudhury (Samdani Art Foundation キュレーター)

2016 年より Samdani Art Foundation に所属し、南アジアを代表する現代美術プラットフォームの一つである Dhaka Art Summit のリサーチやプログラム開発に携わる。若手アーティストとの協働を重視しながら、多様な観客と現代美術をつなぐ活動を展開している。

中東欧グループ招へい者

● スロベニア

Jure Kirbiš (Maribor Art Gallery アシスタント・ディレクター)

クイアな視点を基盤に、キャンプ、フォークロア、物語、オンライン文化、コメディやホラーなどに関心を寄せ、展覧会を企画。2015 年にヴェネチア・ビエンナーレのスロベニア館副コミッショナー、2024 年に「EKO 9 Triennial of Art and Environment」の芸術監督を務めた。

● チェコ

Monika Čejková (National Gallery Prague キュレーター(1945 年以降のコレクション担当))

デジタル時代における現代美術とテクノロジーの関係に関心をもち、人工知能、サイバーカルチャー、ポストヒューマニズムなどをテーマに展覧会や研究、出版活動を行う。National Gallery Prague では、戦後から現代に至る美術の展覧会や調査研究に携わる。

● ハンガリー

Don Tamás (Modern Centre for Modern and Contemporary Arts チーフ・キュレーター)

中東欧の若手アーティストや、現代美術を取り巻く社会・政治・制度的状況に関心をもち、展覧会の企画などを行う。若手アーティストの発表機会を創出する「Küszöb Festival」を設立・運営するなど、美術館内外でキュatorial・プロジェクトを手掛けている。

Kálmán Borbála (Ludwig Museum キュレーター・美術史研究)

中東欧やポスト社会主義地域の現代美術を中心に、展覧会の企画やリサーチに携わる。ミャンマー・ヤンゴンで現代美術のフィールドリサーチや展覧会企画に取り組んだ経験を持ち、異なる文化的背景を横断するキュatorialな実践を行っている。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課 (広報担当：福島、熊倉)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

Szalai Borbála (Trafó Gallery ギャラリー・ディレクター)

Trafó Gallery で、ハンガリーの若手アーティストから海外作家まで幅広く紹介する展覧会を手掛ける。OFF-Biennale Budapest の創設メンバーとして、複数回のビエンナーレで共同キュレーションを担当し、現在は同ビエンナーレの Strategic Board も務める。

●ポーランド

Stanisław Ruksza (TRAFO Center for Contemporary Art ディレクター、キュレーター)

2017 年より TRAFO Center for Contemporary Art の館長兼チーフ・キュレーターを務め、アジアを含む非欧米圏との交流を積極的に展開。芸術と社会・政治的变化の関係をはじめ、セクシュアリティや死、現代美術における境界的な現象などをテーマに研究・キュレーションを行う。

Piotr Lisowski (Wroclaw Contemporary Museum ディレクター)

現代美術の企画や研究、出版など幅広く活動し、ヴロツワフの現代美術史やアーカイブにも継続的に取り組む。「Wroclaw '70 Art Symposium」をテーマとする展覧会や、Jerzy Ludwiński Archive に関するプロジェクトなどを手掛けてきた。

公益財団法人石橋財団について

公益財団法人石橋財団は、1956 年に石橋正二郎によって設立された財団法人です。東京・京橋のアーティゾン美術館（旧ブリヂストン美術館）の運営を中心とする美術館事業と、芸術・文化・教育分野における寄付助成事業を二本の柱として活動しています。近年は、日本文化の海外発信や国際交流、人材育成への支援にも力を入れており、国際交流基金との協力による「現代美術キュレーター等交流事業」や「日本美術リサーチフェローシップ」もその一環として実施されています。

詳しくは、公益財団法人石橋財団 公式ウェブサイト <https://www.ishibashi-foundation.or.jp> をご覧ください。

国際交流基金について

国際交流基金は「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ。」をミッションに、「文化芸術交流」、「日本語教育」、「日本研究・国際対話」を通じて国際文化交流を推進する独立行政法人です。

美術の分野では、コミッショナーとしてヴェネチア・ビエンナーレ日本館を実施するほか、現代美術、写真、工芸、建築、デザイン、日本人形などの巡回展を世界中で展開しています。また、美術分野の国際交流を効果的に進めるため、各国からのキュレーター招へいなど美術関係者等の交流を促進するとともに、美術関連情報の収集・発信を行なっています。

詳しくは、国際交流基金公式ウェブサイト <https://www.jpf.go.jp/j/project/culture/exhibit/index.html> をご覧ください。

JAPAN FOUNDATION
国際交流基金

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp